

327
704

農事講習講義錄



始

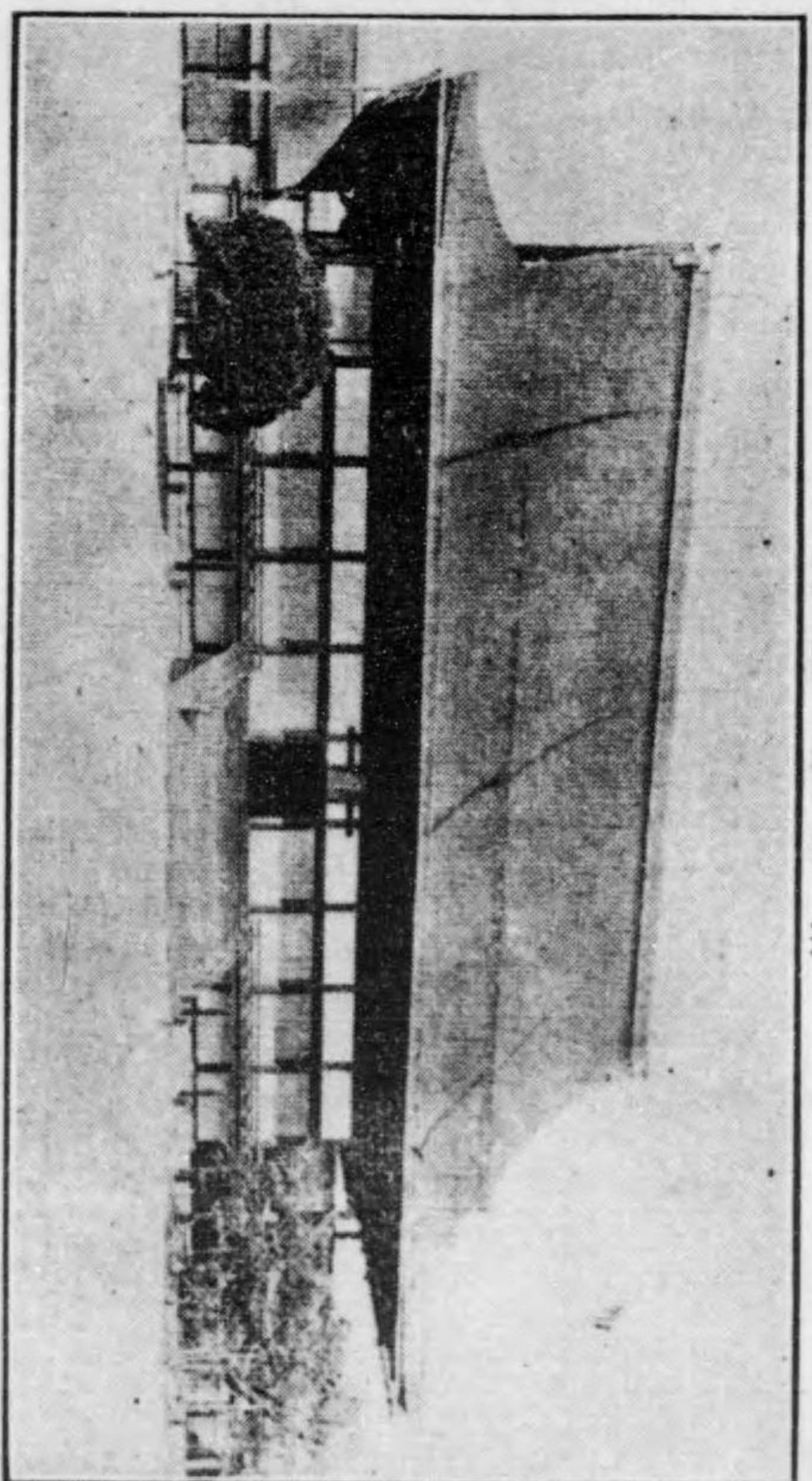


327-704

納本

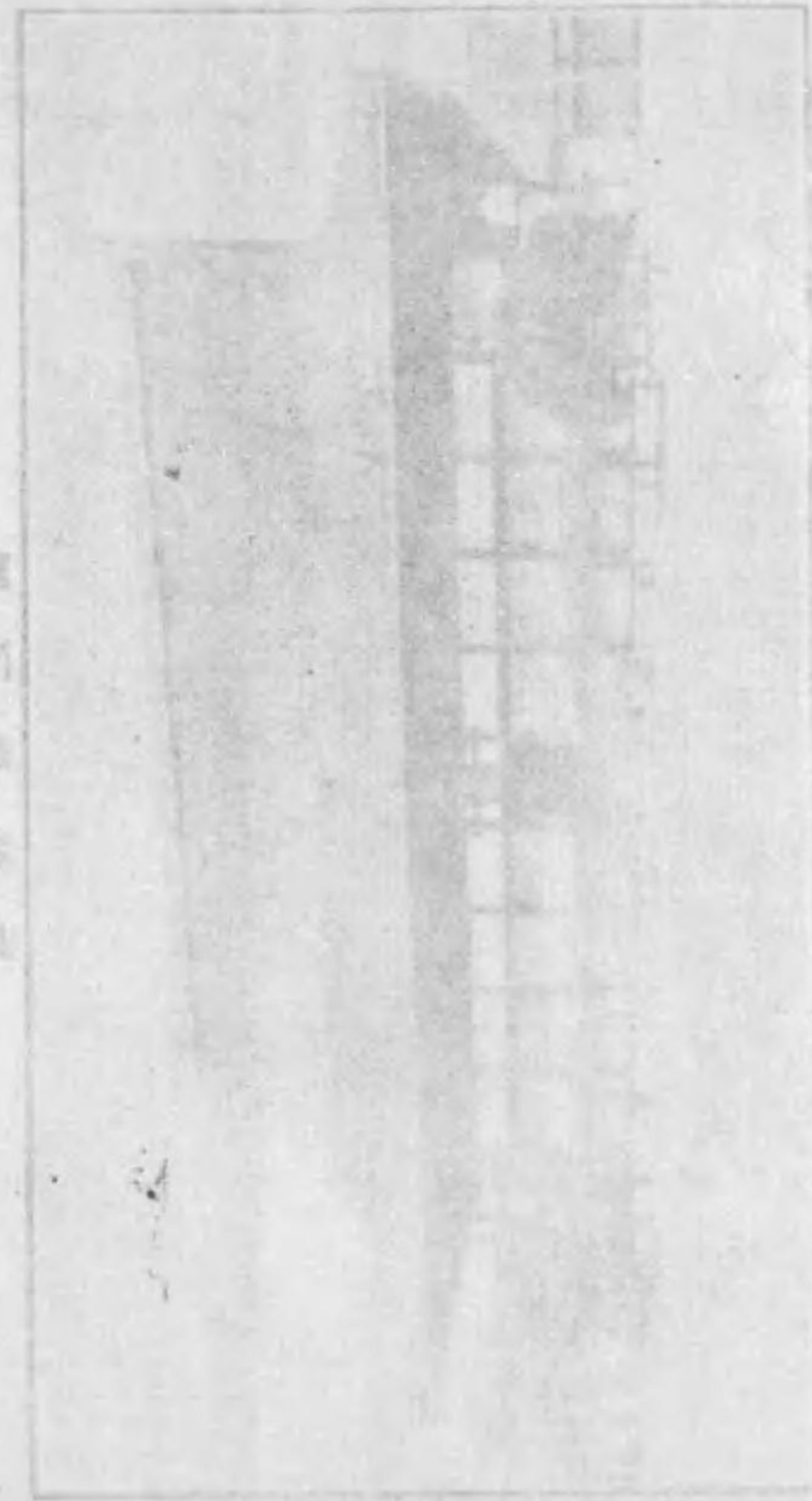
農事講習講義錄

福岡縣立農事試驗場



紫宸殿之圖

豐受姬之像





明治天皇の御製

あまの御神の心にかなみくらむ

あかぬ民のつとむすまはるとは

わかるとはなすけあひつゝぬ民の

むつゝあふ世そなへりけり

あつゝとほしきれきけりはなにかえり

水田にまきりしつ成りてえり



大正
4. 4. 5
内交

一、大豆	三〇
二、小豆	三一
四、蔬菜類	
一、根菜類	三二
二、葉菜類	三五
三、菘類	三六
四、蒴果類	三七
五、其の他の作物	四〇
六、主業と副業との關係	四二
七、農業經濟	
一、産業組合	四四
二、米券倉庫	四五
三、收支計算	四六

二

八、農家中行事	四七
九、土壤と肥料との關係	五三
十、肥料の配合標準表	五四
十一、病虫害驅除調製法	五四
十二、主要作物栽培法	五七
十三、各作物品種表	五九
二、副業	
一、果樹	六五
二、養蠶	六七
三、家畜及家禽	六九
四、林業	七一
五、蘭	七三
六、七島蘭	七三

三

七、煙草……………七四

八、麥稈經木眞田……………七五

九、製紙原料……………七五

十、竹細工……………七七

十一、茶……………七八

十二、藁細工……………七八

十三、藍……………七九

十四、纖維原料……………八〇



衣食住ノ原料供給

諸業ノ基礎

(一) 農業

一、農業と國家

農業の生産物には米麥等の如く人の食用となるものあり麻繭綿等の如く衣服の原料に供せらるるものあり又木竹材の如く人の住居に缺くべからざるものあり斯く農業は衣食住の原料を作り出すものなれば實に國家に取りて最も大切な職業の一と謂ふ可し、衣食住の原料を生産するものは農業にして其原料に加工して種々の工藝品を製造するものは工業なり農工業の生産物の分配をなすものは商業なり即ち商工業なるものは原料を農業に仰ぐにあらざれば殆んど獨立するること能はざるものにして農業盛なれば工業從て盛

農業ト建國關係

に商業も亦盛大なる故に農業は諸業の基礎
なり云ふ事を得べし
我國は古より瑞穂の國とも稱せられ氣候風土
より農業に適するが故に我日本民族は夙に農
耕の術を覺り之を營みて生業となし歴代の
天皇皆農業を以て立國の基となして殊に之を
獎勵し給へり、
國家存立の必要上一國內に消費す可き食料品
は之を其の國內に於て生産するの必要あり農
業者はこの食料品を生産するのみならず國の
富の過半を所有し國民の大部分をなし又最も
多額の租税を納め最も多數の兵士を出し國家
の富強に貢獻すること大なり故に農家の子弟
たる者思を茲に致し益奮つて力を農業の發展
に盡以て小にしては一身一家を起し大にして
は國家の隆盛を圖らざるべからず、

農業ト國家ノ盛衰

農業ト國民ノ發展

本邦は世界に稀なる人口稠密の國なり而して
この上更に年々約六十萬人宛殖ゆつゝあり此
状況にして永續せんか我殖民地は遠からずし
て人を以て充さるゝに至らん從て吾國民は新
なる發展地を發見せざるべからず各國民族の
殖民地に於ける發展の模様を見るに初めまづ
農業者を移して土地を開き耕種せしめ以て其
の基礎を建設したる後漸次商工業者を移住せ
しむ先に商工業者を移したる例を見ずこれ何
の故ぞや他なし農業を以て建つる殖民地は其
基礎強固なればなり

二、農業と愛國心

農業は土地を以て立つものなれば之を離れて
成立することなし、之れ農業者は一般に土地
を愛する心強き所以なり、土地を愛するの念

農業者ハ土地ヲ愛スル心強キコト

農業者ハ勤勞スルニヨリ体格強壯
耐久力ニ富ミ性質純朴ナルニヨリ
兵トシテモ強キコト

兵役ニ服スル人員多數ヲ占ムルコト

慮は從て愛郷心となり進んで愛國心となり忠君の心となるものなり。

三、農業と強兵

農民は愛國心に富むのみならず其從事する職業上戸外にありて勤勞するにより身体強壯にして耐久力に富み、精神亦高潔にして意志強し、此等は兵士たるに缺くべからざる資格にして是れ農民より成る兵は他のものに比して強兵の素質を有する所以なり。
兵役に服する壯丁の多數は農業者たることは統計によりて知ることを得べし彼の熊澤蕃山の言に『農兵』ならは本邦の武勇特別に強く武國の名に叶ふへし、と言へる實に古今強兵の素質を認めたるものと言ふべし。

四、農業と經濟

農業の生産額は約十六億萬圓にして本邦全生産額の總生産額二十六億萬圓の過半を占む我邦總人口の六割を占めたる多數の農民はかく多額の生産者たると共に消費者となり、且又租税納付者の主なるものたり農作の豊凶は一般經濟界を支配し商工業の振否も亦一に農業の盛衰に據る、此くして我邦の經濟界は現に農業の卒ゆる所たりと云ふも亦誇言にあらざるを知るべきなり。
商工業者の製造又販賣する物品は常に一定せるものにあらず若し幸にして其の販路廣く開くる時は俄に巨利を占むることを得べきも一朝販路の閉塞に逢ふことあらんか非常なる失敗を生ずることあるが如く浮沈甚しきに比し

國家經濟ノ主腦ナルコト

他業ニ比シ安全ナルコト

農業者ハ思想着實ナルコト

農業は其事業着實にして年々一定の収入を擧げ得る特質あり

五、農業の品性

農業者は職業の性質上之に従事する間自然に感化されて遂に其思想をして實着ならしむ、即ち如何に性急なればこそ播きたる種子の直に稔らんことを望むものはあらし、又如何に奇法ありとも播かぬ種子の生ずべき理はなからん、人事を盡して天命を待つこと云ふ妙理は手を農業に染めて始めて之を了解するを得べきなり。

農業者ハ廉潔ナルコト

商工業は其事業の興廢人に關係すること多く即ち人の信用或は歡心を買はずんば其業の成效を期し難きこと多きを以て自然背徳の行為に陥り易し、之に反し農業者は事業の成效するに否は寧ろ自然物に關係すること多きを以て其思想おのづから廉潔なるなり。

六、農業の衛生

農業者が長命なることを示すの統計多けれど其の中の一を選んで之を示さば次の如し。

都會ニ於ケル死亡者年齢	田舎ニ於ケル死亡者年齢
中流社會	四四 中流社會
商人	二五 農業者
職工	二二 職工
平均	二七 平均
	四五
	四九
	三九
	四〇

即ち田舎の住民は都會の住民より遙に長壽にして且又田舎にても農業者が最も長命なることを知るべし。農業者は清爽なる空氣を呼吸しつゝ終日田野

農業者ハ長命ナルコト

体強壯ナルコト

天然ノ風光ニ富ミタル所ニ住ミ自
然物ニ接スルニヨリ性質純朴トナ
リ都市人ニ比スレバ趣味深キコト

に於て運動し且つ頭腦を使ふこと商工業者の
如く甚しからざるを以て身体頗る強壯なるも
のなり。

七、農村の趣味

世を擧げて虚飾浮華而して掛引に腐心し心な
らざるをなす間に獨り農民は天の自然の感化
する所發して人生の自然となり其性純朴とな
り誠に天真爛漫として形式の美なるものなし
こ雖も虚飾の惡むべきものなく、目に觸るゝ
ものは山川草木耳に響くものは禽聲虫語四季
折々の變化につれて春は耕し秋は収むる農村
の趣味に至りては、到底都市の俗趣之に及ば
ず、古來東西大詩人の其の詩材を農村に取り
たる又宜なりと云ふべし。

(二) 禾穀類

一、稻

稲の品種は多數にして枚舉に遑あらず從て其
特性を異にし概して其収量多きものは品質悪
しく品質良好なるものは収量少なき事ありて
吾人の希望に應ずる品種少なしこ雖も其目的
とする所は品質優良にして収量多きにあるを
以て可成其地方の風土を考へ、諸般の事情を
稻の性状を調査して栽培するを要す。
試験の結果本場にて優良と認められたるもの
次の如し、

- 早生 白紅屋 穀良都
- 中生 雄町 白玉 万作

晚生 神力 目利 青撰 三井

選種

稲作栽培上良種子を選種することは頗る必要なり、良種子を得んには母本の選種として一本植を行ひ更に粒子の選種として風選篩選、鹽水選等を行ふ可し、鹽水選を行ふ場合には其鹽水選の比重は粳稻にては一、一三乃至一、一五 糯稻にては一、〇八乃至一、一〇にして之の液を作るには水一斗に加ふる食鹽又は苦鹽汁の分量次の如し、

粳稻の場合

食鹽一、二〇〇乃至一、五〇〇(三舛乃至四舛)

苦鹽汁一、〇〇乃至一、一二

糯稻の場合

食鹽一、〇〇〇乃至一、二〇〇(二舛五合乃至三舛)

苦鹽汁〇、六七乃至一、〇〇

浸種

浸種は種子に水分を與へ播種後速に齊一なる發芽を遂げしむるにあり、其日数は水溫の高低稈の厚薄等により一定せざるも普通一週間前後を以て適度とす、浸種の方法には桶浸、池浸又は流水浸等あり、雖も就中桶浸とすを安全なりとす、何れの方法によるも清澄にして新陳代謝するを要し日光の直射を避くべし。

苗代

苗代の位置は人家又は道路の附近を避け四方に開け日當り、風通し良くして水の灌排其他の管理に便利なる所を撰ぶべし。

土質は砂質壤土の類にして餘り重からざる排水良き地を選ぶべし。

位置

土質

苗代田は秋季より早春にかけ之を三寸内外の深さに鋤き起し四月下旬更に鋤を返し、然る後水を注ぎ畦を塗り、耕耙して地面を水平に均らし軽浮なる土壌にては水の稍清澄するを待ち落水したる後、幅四尺の短冊形蒔床を作る可し。

肥料は成る可く速効にして分解し易きものを可とす、本場にて苗代一畝歩に施す肥料の種類及用量は次の如し。

種類	用量
堆肥	一六、〇〇〇
下肥	八、〇〇〇
油粕	〇、八〇〇
過磷酸石灰	〇、五〇〇
木灰	一、〇〇〇

堆肥、油粕、過磷酸石灰は鋤き返しの際に下

肥は其翌日に木灰は短冊形に整地せし後に施す。

尚ほ此の外苗代一畝歩に用ふる二三の例を示さば次の如し、

種類	第一例	用量
堆肥		一五、〇〇〇
下肥		一〇、〇〇〇
油粕		〇、五〇〇
草木灰		二、〇〇〇
過磷酸石灰		〇、五〇〇
種類	第一例	用量
下肥		一六、〇〇〇
油粕		一、五〇〇
過磷酸石灰		〇、五〇〇

草木灰 第三例 二、〇〇〇

種類 下肥 用 量 二〇、〇〇〇

紫雲英 一〇、〇〇〇

草木灰 二、〇〇〇

過磷酸石灰 〇、二二〇〇

播種量
播種期
苗代手入

播種量は蒔床一坪に付四合乃至五合蒔こし本
田一反歩に要する種子量は四升乃至五升とす
播種期は八十八夜を標準とし晴天無風の時を
選ぶべし。
苗代の手入中水の灌排は特に大切なり、灌水
の方法は播種當日又は翌日は二寸内外とし其
後は雨天強風又は寒氣甚しき時を除き毎日發
芽まで午前八九時頃より種子の乾かぬ限りに
水を排して土地に溫熱を與へ午後四五時頃に

至らば再び灌水すべし、苗の四寸内外に生長
せば成る可く淺く灌水するを可とす、其他螟
蛾の点火誘殺、採卵、捕蛾、浮塵子の注油驅
除及び除草等を怠るべからず。

本田整地

冬作収納後直ちに施肥し、鋤き返しを行ひ、
灌水耕起し、畦畔を塗り、漏水を防ぎ更に精
起して挿秧の準備をなすべし。

但し一毛作田にては豫め秋耕又は春耕を行ひ
紫雲英作地は刈取後直に春耕を行ひ置くべし

挿秧

挿秧は六月二十日を標準とし成る可く淺く正
條植となすべし、一株の本數及一坪に植ゆべ
き株數、即ち挿秧の粗密は稻の種類肥料の多
少、土壤の肥瘠、氣候の寒暖、挿秧期の早晚
等に依て差異あるが本場にては四十九株植こ

し、一株の本数を早生中生種は五本晩生種は三本せり。

肥料

肥料は土質によりて斟酌せざる可からざれども常に三分量を適當に配合すること必要なりとす、本場にては一反歩に施肥の種類の分量は次の如し、其内元肥は鋤き返しの際に追肥は雁瓜直しの時に施用せり。

種類	元肥	追肥	計
堆肥	二〇〇	一	二〇〇
大豆粕	一五	五	二〇
過磷酸石灰	五	三	八
木灰	一〇	一	一〇

此の外四五の例を示せば次の如し、

第一例				第二例				第三例			
種類	元肥	追肥	計	種類	元肥	追肥	計	種類	元肥	追肥	計
堆肥	二〇〇	一	二〇〇	堆肥	二〇〇	一	二〇〇	堆肥	二〇〇	一	二〇〇
大豆粕	一五〇	五〇	二〇〇	大豆粕	一五〇	一	一五〇	青刈大豆	一一〇	一	一一〇
過磷酸	七〇	一	七〇	紫雲英	一五〇	一	一五〇	大豆粕	一〇〇	一	一〇〇
木灰	一〇	九〇	一〇〇	大豆粕	一〇〇	一	一〇〇	大豆粕	一〇〇	一	一〇〇
				過磷酸	七〇	一	七〇				
				木灰	一〇	九〇	一〇〇				

種類	第六例	硫酸加里	過磷酸	煉粕	堆肥	種類	第五例	硫酸加里	過磷酸	石灰窒素	堆肥	種類	第四例	木灰	過磷酸
元肥	二、〇	五、〇	一五、〇	二〇〇、〇	二〇〇、〇	元肥	二、〇	一〇、〇	九、〇	二〇〇、〇	九、〇	元肥	七、〇	七、〇	七、〇
追肥	一	一	〇	一	一	追肥	一	一	一	一	一	追肥	九、〇	九、〇	九、〇
計	二、〇	五、〇	二〇〇、〇	二〇〇、〇	二〇〇、〇	計	二、〇	一〇、〇	九、〇	二〇〇、〇	計	九、〇	七、〇	七、〇	七、〇

種類	第七例	木灰	過磷酸	米糖	大豆粕	堆肥	種類	第七例	木灰	過磷酸	下肥	燒酎粕(生)	堆肥
元肥	七、〇	七、〇	五〇、〇	七、〇	二〇〇、〇	二〇〇、〇	元肥	七、〇	七、〇	六〇、〇	六〇、〇	二〇〇、〇	二〇〇、〇
追肥	九、〇	九、〇	一	一	一	一	追肥	九、〇	九、〇	一	一	一	一
計	九、〇	七、〇	五〇、〇	一二、〇	二〇〇、〇	二〇〇、〇	計	九、〇	七、〇	六〇、〇	六〇、〇	二〇〇、〇	二〇〇、〇

除草は挿秧後十五日許にして雁瓜を用ひて株間を打ち返し其後淺水こなし一週間を経て、雁瓜直しを行ひ、地面を均らす、若し追肥を

施さんごするには此の時を可さす、其後手取り及除草器にて交互に七日乃至十日毎に四回位行ひ穂朶以前に終る様になすべし、

●灌漑

灌漑は成る可く淺きを可さす、而して夏土用中時々排水して田面を乾し日光及空気に觸れしむるこそ殊に必要なり、穂朶より開花の頃は最も多くの水を要し開花後は又次第に減少するを以て穂首が稍傾くに至れば全く水を排し努めて田面を乾す可し、

病虫害

稻熱病 (イモチ)

此の病害は一種の菌類の寄生によりて生ずるものなるが稻の生育軟弱なるものは害を被るこそ多し之が豫防驅除法としては種子は必ら

ず鹽水選を行ひ肥料は窒素質肥料のみを用ひず適宜磷酸質及加里質肥料を加用すべし又汚水の流入する場所は窒素質肥料を減じて磷酸質及加里質肥料を與ふ可く冷水の流水する場所は成る可く温めて後に灌水する様心掛く可し又稻の生育中蟹爪打及除草をなし地温の昇る様注意すべし發生の憂ある時は三斗式ボルドー液を撒布すべし。

稻日葉枯病 (シロハガレ)

一種の微生物の寄生によりて發生するものなれども稻の生育軟弱なる時は害を蒙るこそ多きを以て成る可く稻を強固に生育せしむるこそ必要なり之れが豫防驅除法中効果最も多きは、木灰を補肥に施用し或はボルドー液を撒布するに在り。

螟虫 (シンキリ)

螟虫に二種あり年二回の發生をなし害をなすものを二化性螟虫云ふ、三回發生するものを三化性螟虫云ふ、共に稻基の内部に喰入し黄莖白穂を生ぜしむる恐る可き害虫にして三化性螟虫の害殊に甚し之が驅除豫防法は殺虫燈を点じ螟蛾を誘殺し捕虫網或は捕虫器を用ひて捕蛾をなし、又卵塊を採取し枯莖白穂を切り取り尙三化性螟虫に對しては冬季株切断をなして越冬虫を驅除すべし。

浮塵子 (コメカムシ)

浮塵子は卵より孵化し、稻の養液を吸収し大害をなすものにして之が驅除豫防法は越冬虫の蟄伏せる畦畔の雜草を焼くこと苗代に注油して浮塵子の幼成虫を殺すこと、本田に於ては一反歩一舛乃至二舛の油を注入し驅除をなすこと必要なり、若し又陸稻の如き水なき場

合には石油乳劑を二十倍乃至二十五倍に溶き噴霧器にて注加すべし

収獲及調製

收穫期の適否は収量及び品質に影響すること多く其適期は稻穂成熟して全部黄色となり、穂首亦黄色に變ぜし時とす、刈り取りたる稻は乾燥に注意し、籾乾には藎の下に必ず青稈竹箒の類を敷き土地の濕氣又は砂粒の附着するを避け一坪に一斗以内の籾とし晴天二日以上乾すを可とす。乾燥不充分なる時は腹擦を生ずること多く米質を損し易しなほ其他調製に注意し糝籾土砂等の混交せざる様に努むべし。

二、麥

品 種

裸麥ノ良種

大麥ノ良種

小麥ノ良種

本場にて試験の結果優良種と認められたるものは浮羽白、竹下、選穂、三嶋、肥後等とす。大麥は皮ゴールデンメロンなり。小麥にては多古、江島、赤坊主、白坊主、油小麥等とす。

選種

母本の選擇をなし、更に篩選及び鹽水選（大麥比重一、一五、裸麥、小麥比重一、二〇）を行ひ粒子の揃ひたるものを種子用に供するを可とす。尙麥は播種前に麥母豫防法を行ふ可し。整地
水田にては稻株を切りて深耕を行ひ畦作をなし作條を平に切り播種すべし。

肥料

麥は稻と同じく肥料を要すること多し。今本場にて使用する肥料の種類と一反歩に施す分量

ことを示さば次の如し。

肥料種類元肥 第一回追肥 第二回追肥計

堆肥	一〇〇	一〇〇	二〇〇
油粕	一五	一	一五
下肥	四〇	五〇	一四〇
過磷酸石灰	八	一	八
木灰	一	一	一〇

此の外二三の例を示せば次の如し、

第一例

肥料種類元肥 第一回追肥 第二回追肥計

堆肥	二〇〇	〇	二〇〇
下肥	四〇	五〇	一四〇
油粕	一五	〇	一五
過磷酸石灰	八	〇	八
木灰	〇	一〇	一〇

肥料種類	元肥	第一回追肥	第二回追肥	計
堆肥	二〇〇	〇	〇	二〇〇
大豆粕	一〇	〇	〇	一〇
智利硝石	〇	二、五	二、五	五
過磷酸	八	〇	〇	八
木灰	一〇	〇	〇	一〇
肥料種類	元肥	第一回追肥	第二回追肥	計
堆肥	二〇〇	〇	〇	二〇〇
大豆粕	一〇	〇	〇	一〇
硫酸安尼亞	〇	二	二	四
過磷酸	八	〇	〇	八
木灰	〇	一	〇	一

第三例

本場の試験成績に據れば裸麥大麥は十二月上旬に小麥は十一月下旬に播くを適期とす一反

歩に對する播種の適量は裸麥小麥は三外乃至四外五合大麥は四外なり。

一月中旬に第一回追肥を施す際深く中耕し二月中旬に第二回の中耕を行ひ三月中旬に中土入をなし又四月上旬或は中旬に肩上げ及び中土入をなす可し其他挾土鎮壓を行ふを宜しとす。

挾土及鎮壓

挾土は畦間の土を株間に與ふるを以て莖倒伏の患なく雜草容易に發生せず麥をして肩張よき發育を遂げしむ、普通之を行ふの時期は二月十五日三月一日及三月十五日頃とす。鎮壓は寒中霜のため土浮上せる場合並に徒長の恐れある時に行ふて利益あるものなり當場にては第一回鎮壓を一月中旬第二回鎮壓を一

月下旬第三回鎮壓を二月月中旬頃行ふ、試験成蹟によれば二回踏付け最も成蹟よし、元來鎮壓は寒氣強き地方に於ては麥根の浮上するを防止するの作業なれども當地方の如き溫暖なる地方にては寧ろ地上部の徒長を抑制するに在るが如し之を行ふには草鞋又は靴をはきたる儘麥を上より踏み付くるものとす。

収獲及調製

麥の成熟するは稻に比し甚だ短き期間に行はるゝのみならず雨等のために腐れ易きもの故穂黄色を呈せば苧り取り乾燥後麥扱にて扱ぎ落し更に充分乾かし麥摺器又は連枷にて脱穀し篩及唐箕にて調製すべし。

病害

麥の立枯病

早きは十二月頃發生するこあるも二三月頃發生するを普通とす、根腐り葉は黄色となりて枯死す、之れが豫防のため輪作をなし又肥料には適宜草木灰燐肥加用するこ必要なり
麥の赤澁病
葉及葉鞘に發生し黄褐色の粉末を撒布す、之を防ぐ爲め圃地はよく排水を行ひ窒素質肥料の加用を避く可し。

麥の黒穂病(麥奴病)

大小裸麥に發生する病害にして之の芽胞の附着する種子を蒔付くる時は芽胞は種子と共に發芽し麥の幼芽中に浸入し遂に黒穂となす、之を豫防するには冷水温湯浸法即ち麥種子を六時間水に浸して後華氏寒暖計百三十度の温湯に五分間漬け冷水を注ぎて冷却せしめたる種子を蒔き付くるを要す。

(三) 荳菽類

大豆は荳菽類中重要なるものにして東洋の原産なり我國の産額は三百五十萬石内外にして尙國內需用を充たすに足らざる故支那朝鮮より約八十萬石を輸入す種類は夏大豆秋大豆の二種に大別せられ尙各數多の品種あり、夏大豆は四月下旬より五月上旬までの間に播下す其の法普通麥の畦間を除草し七八寸の距離に三四粒宛点播す一反歩に要する種分量は五六升にす、肥料は麥作に多量を用ひ置き特に施肥せざるを普通とすれども沃地を除く外過燐酸石灰草木灰を施用するを可とす麥刈取後は速かに除草中耕を行ひ入梅前培土を行ひ尙其後除草をなすべし八月下旬に至り莢實充分

成熟するを待ちて採取し調製後能く實乾しをなして貯藏すべし。
秋大豆は六月中旬頃麥其他前作物跡地を耕起して土塊を碎き平坦になし一尺三四寸の距離に播條を切り株間八寸位の距離を以て二三粒宛点播すべし發芽後の手入等は夏大豆と大差なし十月下旬に至り落葉して莢實成熟せば抜き取り脱粒調製すべし。

一、小豆

小豆も亦大豆と同じく東洋の原産なり日本全國の産額凡そ七十萬石に達す之が種類を大別して通常小豆蟹眼小豆 綠豆の三種とす栽培法夏大豆に準じ畦幅及び株間は大豆よりも稍狭くすべし成熟は一般に大豆より早しされば元來成熟不揃にして且脱粒の憂あるものなれば成熟して莢の黒色となりたるものより順

次摘採するを可かすれども繁はんを厭いとはず莢まの過と半黒色はんこくしきを呈ていせる頃ころより拔ぬき採とり乾燥かんそうして脱粒だつりゅうすべし。

(四) 蔬菜類

一、根菜類

蘿蔔だいこん、蕪菁かぶ、午莠葱頭ごぼうたまねぎの如ごとく地中ちちゆうに發育はつぐせる部分ぶぶんを收とめんがために栽培さいばいする作物さくぶつを根菜類こんさいるいと云いふ。

(イ) 蘿蔔

蘿蔔だいこんは吾國わがくに重要じゆうようなる蔬菜さいさいの一いっにして種類しゆるい極きまて多く重おもなるものは練馬ねりま宮重みやぢゆう方領はつりやう聖護院せいごいん櫻島おうじま等らう多おほく何なんれも整地せいぢを能よくくし基肥きひを施ほし一株いっしゆう數粒すうりゅうづゝ点播てんぱし發芽はつが後は更さらに二三回にさんかい間引まひきをなし一本いっぽん立たごなし時々ときとき補肥ほひを施ほすべし秋大根あきだいこんは九月頃くわつころ播種はんしゆし十二月頃じふにがつころ収獲しゆくわくするもの多おほく病害びやうがい

にはべト病びやうびやう及び腐敗病ふはいびやうあり害虫がいちゆうには夜盗虫よきゆうちゆう蚜あ虫ちゆうサルハ虫さるはちゆう等らうあり。

(ロ) 蕪菁

蕪菁かぶも亦また品種ひんしゆ甚おほだ多おほく近江おほみ、聖護院せいごいん、天王寺てんのうじ白小蕪菁はくせうかぶ等らう其そのの名高なだかく何なんれも九月頃くわつころ播種はんしゆし發芽はつが後は時々ときとき間引まひ中耕ちゆうかうを行おこなひ十一月じふいちがつより十二月じふにがつに至いたりて収獲しゆくわくす。

(ハ) 午莠

主おもなる品種ひんしゆは瀧川たしかは、砂川すながは、大和やまと、大浦おほうら、梅田うめだ午莠ごぼう等らう多おほく深ふかく土地ちぢを耕かうし基肥きひを施ほし種子たねこは春秋はるあきの彼岸ひがん頃ころ一いっ夜水よみづに浸ひたして後木灰のちのきはい又は砂すなに混まじて播下まきおろし焼土やきつち又は砂土すなつちを以もつて覆おほひ更さらに其そのの上うへに粗殼あらか或あるは藁わらを擴ひろげ置おくべし發芽はつが後は二に三回さんかい間引まひきて一本いっぽん立たごなし又また時々ときとき中耕ちゆうかうを行おこなひ水肥みづこひを與あたふべしかくて適當てきとうに肥大ひだいしたるものを採收さいしゆす。

(三) 胡蘿蔔

主なる品種は瀧の川、金時、札幌、胡蘿蔔等
こす播種の季節は春夏の候こす胡蘿蔔は厚播
を可こし播種量は反當約三外を適當こす圃地
は能く耕起して基肥を施し後一尺六七寸位の
距離に條播し薄く土を覆ひ其の上に切藁粉殻
等を撒布して乾燥を防ぐべしかくて發芽後は
數回間引をなし一本立こなし時々中耕をなし
水肥を施すを可こす而して適當の大に成長し
たる時採取すべし。

(ホ) 瓜哇薯

主なる品種は抑河白、アーリーローズ、スノ
ーフレーク、ルーラル、ニューヨーク等こす
春植は二月下旬乃至三月上旬秋植は八月下旬
乃至九月上旬こす之を栽培するには深く土地
を耕起し作間は二尺許こし基肥を施し種薯を

一株一個づゝこし土を覆ふべし發芽後は芽搔
中耕施肥土寄等の手入をなし而して花蕾を發
生せば可成早く摘去すべし。

(ハ) 葱頭

品種は球の色に依て白赤黄の三種に別つ秋彼
岸前後苗床に種子を播き薄く土を覆ひ其の上
に切藁等撒布し置き十二月に至り本圃に
定植す本圃は豫めより耕起し土塊を膨軟なら
しめ、且つ施肥し置くべし成育中は屢施肥中
耕除草を行ひ又輕鬆ならざる地に於ては根際
の土は勉めて之を除去し球基を露出せしめ
て發育を助くべし。

二、葉菜類

葉菜類は苣類、甘藍、葱、萵苣、菠薐草、野
蜀蓂等の如く地上部の基葉を採取して食用に
供するものを云ふ。

(イ) 苾類

主なる種類は山東菜直隸白菜開城白菜等の結球性のもの長崎白菜本場白菜等の如き結球せざるもの其他体菜等あり何れも八九月頃一反歩四五合位の割合にて條播し後間引きを適當の距離に一本立として耕耘肥培をなし十一月乃至十二月頃に至りて収獲すべし。

(ロ) 甘藍

主なる品種はオータムキング、サクセツション、アーリースプリング、アーリーサンマー等とす春夏秋の三季に播くことを得れども本縣にては九月中旬乃至下旬に苗床に下種するが最も成績良好なり苗は葉柄節間共に短かくして葉の内方に傾くものを撰び成長中追肥中耕除草を行ひ肥料は窒素質のものを多く與ふべし。

(ハ) 葱

主なる品種は下仁田葱九條葱千住葱夏葱等とす春又は秋に一坪凡そ四勺の割合にて苗床に播種し苗を養成し春蒔は五月秋蒔は十一月頃本圃に移植す肥料は基肥として堆肥油粕木灰等を施し尙成育中時々液肥を施すべし、根深葱を作るには豫め深さ七八寸の溝を掘り二三寸距に浅く植込み成長するに従ひ數回土又は糞殻を盛り漸次莖を埋めて軟白す。

三、蒞瓜類

蒞果類とは茄子胡瓜南其瓜他の瓜類の總稱なり。

(イ) 茄子

主なる品種は千成、長、巾着、博多長、博多大長、佐土原、東京山茄子等とす、早春苗を育成し本葉二三枚を生ぜる頃本圃に移植す肥

料は基肥として堆肥油粕過燐酸石灰木灰等を
施し移植後は尙追肥として屢稀薄なる液肥を
施すべし採種用のものは普通二番成の形正し
きものを選び充分成熟せしむるを要す。
病害には恐るべき立枯病青枯病等あり連作す
るごきは其の害殊に甚だし。

(ロ) 胡瓜

主なる品種は節成、博多、三尺、青大胡瓜等
あり早春温床に下種して苗を仕立て後本圃に
移植するものなれども時には直播することあ
り、苗床に育成するものは本葉二三枚を生ぜ
し頃移植す、本圃は町寧に耕翻し基肥を施し
移植後は時々人糞尿を施用し又支柱を設く、
節成種を除く外摘心すべし果の黄熟せざるに
先だち順次之れを採收す病害にはべト病あり
害虫には瓜守蚜虫等多し。

(ハ) 南瓜

主なる品種は箱崎、縮緬、菊座、西京、三毛
門等こす直播するこ移植するこ二種あれども
直播するものは莖葉繁茂し結果遅きのみなら
ず結果数少き傾向あるを以て多くは移植法に
よる栽植の距離は小形種は方四尺大形種八尺
に五尺位こすかくて木葉四五枚を生ぜるとき
心芽を摘み去るべし。

(ニ) 西瓜

主なる品種はアイスクリーム、スリートサイ
ベリアン内國大西瓜等こす移植又は直播すれ
ども移植は困難なるを以て直播するもの多し
四月上旬南瓜と同様豫め地拵をなして播下す
種子は一ヶ所に四五粒にして發芽後間引をな
し本葉三枚を出すとき一本立こなし摘心をな
し二枝を分生すべし成熟せるものは結果せる

節より生ぜる卷鬚枯れ果て土に接する白色部
稍黄變し打音幼果と異なる。

(五) 其他の作物

(イ) 蕪 苔

蕪苔は畑に作るときは直播することあれども
普通苗を仕立てて移植す九月中旬畑地を打ち
起し十月上旬再び之れを耕し四尺五寸幅の苗
床を作り四條の平雁木を切りて一畝歩五勺許
の割合にて下種す。
本圃は麥作に準じ秋五尺幅内外の畦を作り堆
肥油粕人糞尿過燐酸石灰木灰等を基肥として
十二月下旬一尺五寸乃至二尺の株間に互の目
に一本植さなし其後中耕をなし追肥を施す五
月又は六月適當の時期に至れば根元の稍上よ
り刈り取り一週間位乾燥して後調製すべし。

(二) 綠 肥

綠肥の内殊に田畑に栽培して肥料とするもの
を苗肥と云ふ苗肥中作物として適當なるもの
は紫雲英及び大豆にして何れも肥料分を含む
こと多し紫雲英を栽培するには秋彼岸の頃稻
田の水を落して一反歩二坪乃至二坪五合位の
割合にて播種し稻刈取後下肥木灰過燐酸石灰
等を施し十一月中旬頃屑藁二十貫目位を田面
に散布して防寒の準備をなすべし五月の候一
莖に三四個の花の咲きし頃刈り採るものごとす
麥の間作として大豆を栽培するには四月上旬
(清明頃)本作物間に播種す之れに適する種類
は黄色の秋大豆にして一反歩に六坪乃至八坪位
の種子を要す生草五六十貫より多きは二百貫
乃至二百貫を収獲することを得。

(五) 主業と副業との關係

農家は本業の餘力と農閑を能く利用して他の生産業に従事せざるべからずこの仕事を副業と云ふ、而して主業と副業とは地方農村の状況によりて大に異なるも副業の爲め主業を等閑にするが如きは農家經濟上決して有利なる方法にあらずと知るべし副業は其の種類に依りて多くの手數と機械を要するものなれども農家の選はべきは寧ろ農村の餘暇と冬期閑散の時期を利用して簡單に營はれ得るものなるを要す斯くして副業を行へば勞力を最も有利に配當し而も種々の副業物を得て農家經濟を助くることを得べし近年獨乙より盛に本邦に輸入する酒精の如き決して三會社の製品にあらずして殆んど皆農家の餘業的生产に

(六) 農業經濟

かゝるものなり本邦にても中國地方にては麥稗眞田製造菌蕈織等の副業盛に千葉縣にては澱粉製造及養豚業群馬長野地方の養蚕愛知及岐阜縣等の機業も亦盛なり此等の地方の農民は孜孜として本業外の收入を計るを以て自然他地方に比し生活も豊なりと云ふ。副業の種類は主業の繁閑と周圍の情況を考へて之れを定むべく本縣の如き米麥作を主業とする處にては藁細工竹細工紙澱粉養豚薄荷油製造等より造林をなし竹林を開き椎茸を栽培し養蠶を行ひ果樹蔬菜及び花卉を栽培し養鶏養魚養蜂等をなす亦可なり。

(イ) 産業組合

農家の金融を計る機關としては對人信用を主

する産業組合あり産業組合の主なるものは
 信用組合購買組合販賣組合生産組合等なり。
 信用組合は主に一町村一部落を一區域とし
 組合員が互に若干の資本金を出して一種の小
 銀行とも見做す可きものを組織し組合員に産
 業の經營に必要な資金を融通し且預金等の
 便を圖るものなり。
 購買組合は産業又は生活に必要な物品を購
 買し出來得る丈け安價に之を組合員に供給し
 其利益は組合の財産として貯蓄し又其の幾分
 を組合員に配當するを例とするものにして一
 町村又は一部落を一區域とするところは信用組
 合に同じ。
 販賣組合は組合員の生産したるものを販賣す
 るを目的とするものにして生産物を比較的有
 利に販賣し得べし。

生産組合は組合員の生産したるものに加工し
 又は産業に必要なものを組合員相互に使用
 するを目的とし此等の組織は農業の改良を圖
 るにつきて其の效果大なるのみならず勤儉の
 風を養ひ隣保相助くるの實を擧ぐる等一般に
 町村の風儀を善良ならしむの効あり。

(二) 米券倉庫

米券倉庫とは他人より米穀の寄託を受けて倉
 庫内に保管をなし寄託者の請求により所謂米
 券と稱する預り証券及び質入証券を發行する
 を業務とするものにして農村米の集散すべき
 適當の部落に設くるを可し而して此の倉庫
 には農商其他何人も隨意に來りて米を入庫す
 ることを得其の入庫米に對しては検査員之れ
 を検査し商品的等級を附す其米は各等級別に
 倉庫内に積み込み其等級に従つて入庫票即ち

其の米の切符を交附す之の米券は所持人其儘賣買讓與他人に通用することを得
又倉庫の保管料は入庫者の負擔にあらずして切符買受人即ち其の米の出庫者が支拂ふもの
ごす米の紛失盗難雨漏鼠切亂侵等は倉庫事務所が辨償し切符の保管期限は一ケ年間繼續するものごす。

(三) 收支計算

農業は利を營む處の一の生産業なれば農家は其の收穫物の賣却高及び消費高を明記し後に必ず收穫をなすまでに支出する費用を調べ收入し得たる金額に比し幾何の損益ありしかを勘定せざるべからず。
この勘定を收支の計算云ふ而して支出計算には農業支出家事支出及び其の他の支出等を區分し常に贅費に流れざるの留意をなさんこ

を要す。

農家中行事

- 播種移植……………促成栽培用蔬菜の下種、茄子、胡瓜、冬瓜等の温床移植、及蘭甘藍、花椰菜及葱頭の移植
- 施肥中耕……………大麥、小麥、裸麥、薔臺、及果樹類、桑、孟宗竹、茶等
- 接木……………梅の芽接
- 收納……………漬菜類、促成及軟化蔬菜類、菠薐草、葱、獨活、慈姑、蓮根
- 家畜養蚕……………甘藍、楮、三極、薪炭用材の收納
- 山林……………豚の交配、蠶室の消毒、蠶簇の調製
- 雑事……………枝打、伐木
- ……………堆肥、製造、俵装、其他藁細工、農具の修繕、害虫多き畑地を打ち起して寒に曝す。

採種移植……………煙草、茶、松、杉等の下種及び砧水用果樹の實播移植

施肥中耕……………麥類、薯蕷、蠶豆、豌豆、草苺、ミツバ

接木……………薔薇、果樹類

收納……………漬菜類、葱、胡蘿蔔、土當歸等

山林……………枝打、伐木

雑事……………水田耕耨、排水工事、苗木の購入、道路溝渠の修繕、藁細工製造、梨の剪定、及害虫驅除

三月

播種移植……………胡蘿蔔、時無大根、午莠の下種及茄子、胡瓜、蕃茄、甘藷、葱等の床播、麥、藍、草花類の下種、草苺を根分けして移植、果樹類桑の移植、苧麻、其他宿根、草花類の根分け移植

手入……………麥類薯蕷の止肥、豌豆、蠶豆、茶、桑、果樹類、施肥

接木……………梨、柿、桃、柑橘の接木、葡萄の挿木

收納……………石刀、柏、蔞、高苜、午莠、芹、花椰菜二年子大根

家畜……………家禽の孵化、牛馬羊豚の分娩

山林……………苗木の床替、植林

雑事……………苗代の耨き起し、柿、密柑等の剪定及び害虫驅除

四月

播種移植……………王蜀黍、蕎麥、胡麻、大豆、小豆、落花生、西瓜、南瓜、越瓜、冬瓜、甜瓜、茄子、蕃茄、甘藷、大根等の播種及移植

手入……………桑、茶、果樹類、豌豆類

收納……………筍、茶、二年子大根

家畜養蠶……………家禽の孵化、豚の分娩、蠶子の催青、蠶兒の掃立

山林……………植林

雑事……………籾の浸種

五月

播種移植……………籾粒の下種、茄子、葱、煙草の移植

手入……………果樹の袋掛、病虫害の驅除豫防、紫雲英を刈りて緑肥とす

收納……………二十日大根、莢豌豆、蠶豆、草苺、茄子、甘藷等

養蠶家畜……………養蠶、蜜蜂の分封、牛馬豚の交配

播種移植……………
 粟、黍、胡蘿蔔、萵苣、大豆の下種、甘藷挿、稻田の挿秧
 常緑樹の挿木、又は移植、竹類の移植
 山林の下刈、苗圃の日覆、桑の株直し、稻田の害虫駆除
 果樹の緑枝剪定、病虫害の豫防駆除
 麥類、薯蕷、茄子、葱頭、枇杷、紫雲英種子、除虫菊、青
 刈大豆、甘藍
 蚕の上簇、蚕種製造、羊の剪毛等
 養蠶家畜……………
 播種……………
 馬鈴薯、粟、胡蘿蔔、大豆、小豆、二十日大根
 山林の除伐、稻田の除草、灌溉、害虫駆除豫防、甘藷の蔓
 返し、果樹の剪定、稲の追肥
 夏大根、馬鈴薯、紫蘇、瓜類、甘藍、桃、梨、蘭等
 養蠶……………
 夏蠶飼育
 接木……………
 果樹の芽接

八月

手入……………
 灌溉、害虫 驅除豫防
 主蜀黍 豆類 里芋 瓜類 葱 煙草 甘藷 桃 梨 葡
 萄等
 養蠶……………
 秋蠶飼育
 播種……………
 紫雲英 草花類 除虫菊 牧草類 秋蘿蔔 蕪菁 苾類
 薯蕷 葱頭
 接木……………
 果樹の芽接
 粟 黍 茄子 蕃茄 果物類 馬鈴薯 其他の瓜類
 山林……………
 竹 杉 檜の伐採 間伐
 稲の排水 稻田の害虫駆除豫防 堆肥製造 製俵
 雑事……………
 播種移植……………
 蚕豆 午莠 二年子蘿蔔の下種 草苺の移植
 稲 里芋 薑 胡麻 柿 苹果 林木種子 午莠
 家禽……………
 鶏卵の孵化
 山林……………
 杉 竹 檜の伐木 間伐

九月

雑事……………製俵

播種……………麥類

收納……………稻

家畜……………羊の交配

山林……………薪炭

雑事……………稻扱

播種移植……………麥

手入……………果類類

收納……………苾類

家畜……………豚の交配

山林……………枝打

雑事……………果樹類及庭木

十一月

蚕豆 豌豆 果樹臺木の實播

午莠 胡蘿蔔 蕪姑 蓮根 落花生

薪炭 材木 間伐

十二月

促成栽培用茄 菜豆 胡瓜の下種 蕪臺の移植

庭木類 茶 麥等の施肥

苾類 蘿蔔 蕪菁 茶の種子等

山林の伐木 間伐

苗圃其他の防寒装置 炭焼 稻扱 稲摺

紙草鞋 蓆 繩等の藁細工製造 休閑地にして粘氣強き土地の耕耨

土壤肥料との關係

砂土……………

有機物に乏しく肥料の分解速なるが故に堆肥、厩肥、山草、海藻、骨粉等の如く分解し難き性質の肥料を施す可し。可溶性の液肥、智利硝石、硫酸安母尼亞等は流失し易きが故に之を數回に分施し、磷酸肥料も元肥の外尙追肥として施用す可し。

粘土……………

概して肥料の含蓄力に富むと雖も肥料の分解少しく遅きが故に能く腐熟せる堆肥、厩肥又は硫酸智利硝石、下肥の如き作物の汲收し易き肥料を與へ、磷酸肥料は之を元肥として與ふ可し。

礫土……………

適量の石灰を加用し特に磷酸の供給を充分ならしめんがために過磷酸石灰の施用を怠る可からず。土壤の組織良好にして概して肥沃なり特に肥料の種類を選ばず。

壤土……………

肥料の配合標準表

即時ニ混合施用スベ 豫メ混合シテ直ニ使ハスルハ差支ナシ
(混合シテ直ニ使ハスルハ差支ナシ)

人糞尿ト	草木灰ト	石灰ト	過燐酸石灰ト	硫酸アンモニアト	智利硝石ト	石灰室素ト	人糞尿ト	草木灰ト	石灰ト	過燐酸石灰ト	硫酸アンモニアト	智利硝石ト	石灰室素ト
カラザルモノ	草木灰ト	石灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト	草木灰ト
混合シテ利アルモノ	過燐酸石灰	混合シテ利アルモノ	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰

病虫害驅除劑調製法

名稱	調合量	調製法
石油乳劑	石油一升、石鹼十 五合	石油を薄く削り水にて沸煮溶解せしめ別器にて石鹼を温め攝氏七十度に至りたる時此の兩液を混和して手早く手ポンプにて激しく攪拌して牛乳様になり稍粘氣を帶ぶるに至りて止む而して之を乳劑

除虫菊加用 石油乳劑	石油一升 石鹼十二匁乃至十 五匁除虫菊二十匁 水五合	の原液をす、原液は適宜稀薄して用ゆ 石油一升に除虫菊の粉末二十匁を投じ能く振盪して二晝多密閉し數回振盪し充分除虫菊の有効成分を石油中に浸出せしめ布にて濾過し此浸出石油を以て前記乳劑と同様に調製す可し。
石鹼水	石鹼一匁五分乃至 三匁水一升	所要の石鹼を薄く削り之に水を入れて煮沸溶解し充分冷却したる後施用す可し。
除虫菊石鹼 劑	石鹼一匁乃至二匁 除虫菊一匁乃至三 匁水一升	水一升到石鹼の細切したるものを投じ煮沸溶解したる後、之を別器に移し之に除虫菊を混じ其儘一晝夜密閉しおき施用の際布にて濾過す。
石灰硫黃合 劑	生石灰百二十匁乃至 百六十匁硫黃華 百二十匁水一斗	二個の釜を用意し一を湯釜とし他を煮釜とす、湯釜に水を充たし煮沸せしめ(生石灰を別器に盛り水を加へて消和せるのち湯釜にうつす)煮釜の熱湯三升を石灰に注ぎ能く混和し次に硫黃華(あらかじめ湯を加わおきたる)を混じ攪拌煮沸すれば淡黄色より赤褐色となり遂に赭色となる然る後十

松脂合劑

松脂百匁魚油四匁
乃至一合苛性曹達
二十五匁水一斗

分乃至二十分間煮沸し濾過して用ゆ、煮沸中に湯釜より熱湯を煮釜に移して液の全量を一斗とす。苛性曹達を二升五合の水に浴し加熱しつつ之に松脂を混入す煮沸すること三十分乃至一時間にて全く溶し液の淡黄色となるに及びて魚油を加へ尙攪拌煮沸し、漸次湯を増加して一斗に至らしめ始めより累計して三時間になりたる時冷却して用ゆ。

石油ボルド

硫酸銅百二十匁生石灰百匁乃至百二十匁水二斗乃至三斗

大小三個の桶を準備し一個の小桶に熱湯二升許りを盛り硫酸銅を麻袋に入れて湯中に吊し硫酸銅の溶けたる後冷水を加へて全量を一斗とす別に小桶に生石灰を入れ少量の熱湯を注ぎ生石灰を粉碎したる後冷水を加へて全量を一斗とす溶解したる兩液を大桶の上に箆を受け同時に濾過しながら移し込み攪拌す、此の混和液は二斗式の石灰ボルドー液なり

硫酸銅五十匁炭酸水五升に硫酸銅を溶し水五升に炭酸曹達又は苛性

曹達ボルド

曹達六十匁或は苛性曹達十四匁水一斗乃至一斗二升

曹達を溶かし之を同時に大桶に移し込み攪拌す液に粘質を増さんが爲めに生石灰五匁を少量の水に溶解して注加する場合あり。

糖密ボルド

硫酸銅百匁糖密百匁或は砂糖五十匁生石灰百匁水一斗乃至二斗

四升の水に硫酸銅を三升の水に生石灰を溶して石灰ボルドー液を製し後に三升の水に糖密を溶解したるものを混和す。

主要作物栽培表

名稱	適地	播種期	播種量	肥料	收穫期	收量	患害
稻	排水ヨキ壤土	五月下種 六月移植	苗代一坪 四五合	人糞尿、堆肥、油粕、大豆粕、過磷酸石灰、木灰	十月 十一月	二石乃至三石	葉枯病、稻熱病、稻麴病、螟虫、浮塵子
陸稻	壤土	五月	三四升	全前	全前	二石	全前
裸麥	砂質壤土	十二月	三升乃至三升五合	堆肥、油糟、人糞、尿、過磷酸石灰、木灰	五六月	二石乃至三石	黑穗病、斑葉病、葉澁病、針
小麥	粘質壤土	十一月	全前	全前	六月	全前	全前

粟	輕鬆壤土	四月乃至七月	四合	堆肥、人糞、尿、大豆糞、過燐酸石灰	九月十月	二石	黑穗病、ササラ病、髓虫、蚜虫、夜盜虫
玉蜀黍	壤土	四五月	三升	堆肥、人糞、尿、過燐酸石灰、木灰	九月十月	一石五斗	黑穗病、根切病、夜盜虫
大豆	粘質壤土	四五月	五六升	草木灰、過燐酸石灰	八月十月	一石五斗	萎黃病、銹病、蛾虫、象鼻虫
小豆	粘質壤土	四六月	五六升	全前	八月十月	二石五斗	全前
豌豆	石灰質壤土	十月	四五升	全前	五六月	一石五斗	銹病、蚜虫、夜盜虫
蠶豆	粘質壤土	全上	五升	全前	全前	全前	全前
馬鈴薯	砂質壤土	二三月乃至八月	三十貫	堆肥、草木灰、過燐酸石灰	七月十月	三四百貫	疫病、立枯病
甘藷	砂質壤土	三月下種	種苗三千本	堆肥、米糠、過燐酸石灰	八月九月	三四百貫	紫紋羽病、白絹病
蕎麥	水濕多キ地ヲ好ム	四月七八	五升	堆肥、人糞、木灰	六月七月	一石五斗	夜盜虫
大根	深キ壤土	九月	四合	油粕堆肥、人糞	十二月	六百貫	ルハ病、腐敗病、夜盜虫、カブラ蜂、蚜虫

天

各作物品種表

蕪菁	壤土	八九月	五合	堆肥、人糞、尿、安智利硝石	十二月	五六百貫	全前
苧類	壤土	全前	全前	全前	全前	四百貫	全前

作物名稱

品

種

稻 (粳)

(早稻) 高津、白紅屋、穀良都、郡益、荒木、赤紅屋、愛國
(中稻) 雄町、天狗、御成所、今長者、万作、都、三把、白玉、毛蘇坊主、豐前坊主、早神力、辨慶、善光寺、新關取、筑摩

(晚稻) 青撰、竹成、須賀一本、神力、目利、中田、白天草、六條、金箱、壽、萬藏、稻本、増山、七徳、神力糯

陸稻 (粳)

淺賀、金子、金禾坊、戰捷、三重、オイラン、信州早生、大畑、大畑早生、晚生戰捷、黑鬚、都の城、横山、國分、霧島、岡山

光

陸稻 (糯)

裸麥

大麥

小麥

大豆

小豆

静岡、アラビヤ、七里、ヒツクリ、朝倉

於七、浮習白、三島、鬼裸、仙臺、矢根、竹下、肥後、ユ

ピンカ鯖、珍好、江戸一、白裸、撰穂、花岡、ゴールデン

メロン、六角、シバリエー陣内、一皮

鬚奴、淀橋、三月子

江島、穂揃、多古、島原、和歌山、筑前、宮崎、菊地雪晒

赤坊主、白坊主、油小麥、フルツ、オレゴンオーストラリ

ヤ、ターテ、フセンス、ユログアフスノイ、ユスカニー

フオアニーステット、アフトウツコ、ノウスアリーハンバ

セアルヒブリット、フェルララレットパーレー

赤茨、イタナ、千成、オイラン、長五郎、十人好、目白、

鈴成、玉造、鶴の子、青入道、鞍掛、麴イラズ

皇國の光、玉の井、銀茨、瀧谷、黒大豆、旭、三徳、英赤

新瀉目白、宮崎目白、赤茨

大粒、日根、西原、薄色、小豆、大納言、珊瑚樹、丸葉、

柳葉、劍先

粟 (粳)

粟 (糯)

玉蜀黍

瓜哇薯

甘藷

茄子

胡瓜

黄粟、早生粟、十八杵、溝早生、吉伊、竹の内、巻筆、國

分、地摩、八畝十俵、小万石、駒繫場、井上、吉利、嫁啼

赤粟、デクワンダマシ、島原、鶯糯

ロングフェロー、キングファイリツプ、セルフハスキング、

甲刈種、(普通種) ブラツクメキシカン、アーリースウ井

ート、(甘種)

アーリーローズ、スイフレーキ、リマーバンドサルサルン

ズター、キドニー、ホロイトエレフアント、ブライトアメ

リカン、柳河白、長崎赤

高須、屋久島、米國、川越、二十日、赤四十日、アツギ、

ゲンデ、ボケ、赤薯、琉球一號、焼酎、紅觀、潮州、青心

湯水、白四十日

佐土原、博多大長、博多長、肥後大長、南部長、中生東京

山茄、晩生東京山、大歳、三島、佛國大圓、清國大圓、蔓

細千城、清國白、加茂川、巾着

博多胡瓜、三尺胡瓜、青大胡瓜、節成胡瓜、クルーエンド

南瓜

クリツスプ、赤胡瓜、白胡瓜、カットヒルス、ブラツクス
パイン
縮緬、菊座、鹿ヶ谷、大黒早生、西京、早生、三毛門、福
童、箱崎、ハツバード

西瓜

マウンテンスイート、アイスクリーム、内國大西瓜、在
來種、八女西瓜、スイートサイベリアン

里芋

早生赤、唐の芋、エグ芋、八頭、赤芽、蓮芋、縞芋

葱頭

赤色種、黄色種、白色種、ブライスデカー

人參

瀧川、金時、札幌、フレンチファースティング、オックスハー
ドハンゴオレンヂ

牛蒡

大浦牛蒡、砂川牛蒡、瀧の川牛蒡、大和牛蒡、梅田牛蒡、

蕪菁

天王寺、聖護院、長蕪、緋蕪、今市小蕪、近江蕪、白小蕪

大根

宮重、練馬、方領、聖護院、櫻島(白上り大根)、天満(守
口)島大根

葱

下仁田(千住)九條(岩槻)秋田

菘類

直隸)白菜(山東白菜)結球白菜(朝鮮白菜)金州白菜

甘藍

開城白菜。北京白菜。芝還白菜

アーリースプリング、アーリーゼルシーサクセツション、
アーリースアンマー、オータムキング、トラムベツト、ウエ
ーキフイールド

第二副業

一、果樹

果樹の主なるものは柑橘、枇杷、柿、梨、梅、栗、桃、葡萄、無花果、苹果等
 こそ世の開くるに従ひ益果物の需用増加し果樹栽培は有利なる事業となる凡そ
 果樹は氣候土質に適否あるを以て之を栽培せんこそは豫め其地の氣候、土質及
 果樹の性質嗜好の變遷、販路、運搬の便否等を調査するを要す今本縣に適する
 優良品種を擧ぐれば次の如し

梨……眞鍮、獨逸、長十郎、早生赤、今村秋、晚三吉、「バートレット」「ゼ
 ユツセス、ダングレーム」

桃……「アムステンジュン」天津水蜜桃、離核水蜜桃、油桃「プレコース
 ド、クロンセル」

葡萄……「ジエツシカ」「キヤンベルスアーリー」「ナヤンピオン」「ペーコン」
 「ダイアナ」「レデーワシントン」「ハイランド」甲州

柑橘……温州「ワシントンネーパールオレンジ」「バレンシヤレート」
 柿……衣紋、西條、葉隠、横野、蜂屋、金月一名、祇園「以上澁柿」富有

次郎 正月 元山 『以上甘柿』

枇杷 田中 茂木 立花

無花果 …… 「ホワイトゼノア」

李 …… 寺田 米桃 郁李

苹果 …… 紅魁 祝 旭等ごす

果樹を繁殖するには實生、挿木、接木等の方法に據る實生は其性質を悪變するの虞あるを以て普通接木に據るものごす接木には嫁接ご芽接この別あり嫁接の適期は早春樹液の循環を始めんとする時にして芽接は晩夏樹液の循環稍緩となりたる時ごす

苗木の移植は秋又は早春を可とし町嚀に掘り取り根及幹は適宜剪定を行ひ豫め整地し基肥を施したる本圃に植付く果樹は年々枝條の幾分を剪除するを要す之を剪定ご云ふ剪定は果樹栽培家の熟知するを要するものにして其の目的は樹勢を齊へ過度の生長を抑制し空氣の流通日光の透射を良くし以て良果を多く結ばしむるにあり、之を行ふは冬季及夏季の二期に於てし冬季に行ふを冬季剪定夏季に於てするを夏季剪定又は緑枝剪定ご云ふ
果樹は剪定に依りて其の枝ぶりを整ふる外支柱 建て或は柵を作り樹枝を撓め

て之に依らしむることあり之を整枝ご云ふ、整枝に種々の方式あるが其主なるものは杯狀形、垣根造、柵造、圓錐形等ごす

果樹は他の作物の如く施肥するの要あり施肥は休眠期間に在りては堆肥、骨粉の如き遲効肥料を施し生長期間に在りては速効肥料を施すをよごす、果樹には之に寄生する病原害虫の種類多く其被害亦甚し病害ごしては柑橘類の瘡痂病、煤病、梨の赤黒星病、桃の縮葉病、葡萄のべト病、炭疽病等主なるものにして之を豫防驅除するにはボルドー液を散布す可し害虫ごしては、柑橘のダニ類、梨の心喰虫、桃の蚜虫、分殼虫等にして之を驅除するには石油乳劑、除虫菊、石油乳劑を用ひ又靑酸瓦斯の燻蒸を行ふべし
果樹栽培をなし可成純益の多からんことを圖るには栽培上技術の改良も必要缺く可からざるごなれごも之が販賣機關ごして組合を設置するごこ頗る肝要なり
又果樹は農家の副業ごして經營す可きものなるを以て其方方の許す範圍に於てし大なる經營は之を避くべし

蚕は飼育する時期に依り春蚕夏蚕秋蚕等の別あり又孵化の回数に依りて一化蚕
 二化蚕、多化蚕等と呼ぶことあり春蠶中優良なる種類は又昔、菁熟、小石丸角又
 等にて夏秋蠶に在りては白龍、菁熟、新屋飛白等なり、春蚕、掃立期は四月廿日
 前後を以て標準とするも桑發芽の早晩に應じ斟酌すること肝要なり、蚕種の孵
 化は自然に放任する時は桑葉の發生に伴ふこと能はざるのみならず不齊にして
 蚕兒も健全ならず且繭質も不良なるを以て人為的に孵化を補助せざる可からず
 是の手續きを催菁云ふ催青を行ふには蠶種を蠶室に移し漸次室内の温度を高
 め華氏七十度に至らしむるか又は終始七十度とし漸次孵化するに至らば掃立を
 行ふ即ち孵化せし走蠶は之を掃き捨て其後に孵化せし大部分の蟻蠶を紙上に打
 ち落すものごす掃立終らば蟻量を算出し置く可し蟻量一匁の蟻蠶大約一萬頭あ
 りて三斗内外の繭を作るものごす蠶兒には初め細かく判したる桑葉を與ふ給葉
 は蠶兒の發育の模様によりて其回数及分量を増加するものごす但し桑は濡桑蒸
 し桑又は泥葉は避く可し桑の判み方は四齡までは蠶兒の体長に等しく五齡に至
 りては枝付きの儘與へて可なり給葉を重ぬるに従ひ殘葉及蠶糞漸次蠶座に堆積
 し惡臭を放つのみならず蠶座を濕し蠶兒の健康を害することあれば時々之を除
 去せざる可からず、是の事を除沙云ふ除沙をなすには雅蚕には栗糠壯蚕には

粗糠等を撒布して其上に給葉し蚕兒の匍ひ上るを待ちて行ふ尙此の時網を用ゆ
 れば便利なり又蚕兒は生長するに従ひ其蠶座面積を擴ぐるの必要あり之を分蒔
 云ふ通常除沙云ふ共に行ふものごす飼育中恐るべきは種々の蠶病にして之等を
 未發に防ぐこと肝要にして蠶兒をして強壯に生育せしめんが爲め蠶室の温度濕
 度に注意し大抵春蠶にては華氏七十度を標準とし之より低溫の時は火力を以て
 蠶室を補温す可し蠶兒は五齡の終に至らば食慾漸次衰へ体稍短縮し同時に透明
 に見ゆるに至る此の状態に達したるを熟蠶云ふ熟蠶は之を拾ひ取り簾に入れ
 て繭を結ばしむべし之を上簇云ふ上簇後二三日にして蠶を結び終り更に三四
 日を過ぐれば蛹となるを以て此の時繭掻きをなし蠶種製造用の外殺蛹す可し

三、家畜及家禽

家畜の主なるものは牛馬羊豚等なり馬は最も有益なる家畜にして農耕、運搬、
 騎乗等に用ひられ又其糞尿は肥効大なり品種に種々あり本邦種にては南部及薩
 摩馬其名高く外國種にては騎乗用としてアラビヤ種及英國純血種農耕馬鞍車用
 として「クライデステール」種「ペルシユロン」種等有名なり牛には農耕、
 運搬等に供せらるるものゝ外肉用乳用として使用せらるるものなり骨太くして

前軀能く發育し力強きは耕耨負荷輓車等の用に適し体太く骨細く肉厚きは肉用に宜しく瘡形にして後軀と共に乳房能く發育し多く乳汁を出すものは乳を搾り取るに適す本邦の牛は其体格勞役に適し但馬牛肥後牛等其名高く外國種の役牛にてはデボン(肉用を兼ね)シンメントール(乳肉用を兼ね)有名にして肉牛には短角種(乳用をも兼ね)乳牛にはエノヤシヤ、ホルスタインの諸種あり牛馬を飼育する畜舎は高燥の地にて空氣の流通良く東南又は南方に面するを可とす敷藁は時々取り替へ常に舎内の清潔を保つ可し又晴天の日家畜を舎外に出して運動せしめ皮膚を掃除し常に親切に取扱ひて惡癖を生ぜざらしむる様注意し食事は規則正しく與ふること必要なり馬には炭疽、鼻疽、牛には牛疫、肺結核、流行性鵝口瘡等の恐ろしき傳染病發生するところあるを以て疾病の徴ある時は直に獸醫の診断を受くることを怠る可からず

豚は主として肉用にヒデパークシヤ、ヨークシヤ、ポーランドナヤイナ等は良種を以て名あり本邦種としては琉球種、谷頭種あれども何れも外國種に及ばず元來豚は蕃殖力強くして一産に數頭乃至十數頭を産み性汚穢を喜ぶに似たるも其の實頗る清潔を好むものなれば豚舎は宜しく清潔に保つこと必要なり

家禽には鶏、鶩、鶩、吐綬鶏等ありて其主なるものを鶏とす鶏は用途に據て卵用、肉用、卵肉兼用及愛翫用の四種に分つ卵用の主なるものはレグホン、アンダルシヤン、ミノルカ、ハンパーク等肉用にはブラマ、コーナン卵肉兼用にはプリモースロツク、ナゴヤコーナン愛翫用としては長尾鶏、矮鶏等あり鶏舎は成る可く南又は東南に面し日當りよき乾燥せる處に設け常に清潔に保つへし飼料は糞、小麥、大小麥、小米、粟、稗、黍、昆虫類肉屑等にして尙時々石灰質物を與ふべし

四、林業

森林に仕立つる植物を林樹と云ひ其種類極めて多し通常葉の形狀に依て針葉樹と潤葉樹とに分つ松、杉、扁柏等は針葉樹にして櫟、樟、檜等は潤葉樹なり竹も亦林樹に屬し若竹、淡竹、孟宗竹等ありこれら林樹は建築器具機械船艦橋渠薪炭用等其用途頗る廣きのみならず近年學理の進歩に伴ひ木材より紙を造り木精、醋酸を製する等益其用途増加するに至れり又森林の間接の利益を擧ぐれば水源の涵養となり或は土砂の扞止 防風の用となり或は魚族を誘致し或は氣候を調和する等枚擧に遑あらず此く森林の効用は大なるものなれば努めて之が保

護造殖を計るべし
 造林用苗木は凡て苗圃に於て養成す苗圃は肥瘠中康なる砂質壤土を可とし冬期
 耕耘して寒氣に曝らし早春再び整地して下種し上に藁等を覆ひ置くものごとす
 櫟樫の如き大粒種は秋に下種するを可とし發芽後夏は日覆ひを行ひ冬は霜除を
 なすべし播種の翌春に至れば是を掘り採り一本づつ適當の距離に床替をなす
 べし此くして二三年を経過し苗の充分生長したる時之を林地に定植す移植期は
 早春又は秋落葉後にして林地は豫め地拵をなし置く可し植付の際根を乾か
 さざる必要なり而して其深さは床替苗圃に在りし時と同一の深さに植付込
 む可し植方には方形植三角形植等あり其後手入れをなす必要にして其主なる
 ものは下刈枝打間伐等とす下伐は毎年一回又は二回行ひ枝打は林樹を植付
 付けたる後數年を経て下枝互に入り交ゆるに至れば樹幹の凡そ三分の一以下に
 ある枝を伐り採る可し又林樹生長するに従ひ下木となるものを伐採す可し
 竹は本邦の氣候に適し肥妖なる礫質壤土又は壤質壤土に能く生育す竹林を造る
 には苗木を植付込むべし其苗木は中庸より稍細き新竹にして完全に發育せるも
 のを選び可成地表に近くして健全なる枝葉を有する節三四を残し夫れ以上は切
 り去りて植付くるものごとす植付時期は春二月中旬より三月上旬及秋十月中の

二季を以て最良とす植付後は施肥、手入等を行ひ土地を膨軟にすべし

(一) 藺

藺の適する土質は粘質壤土にして排水灌漑共に便利なる處とす苗木は株分法に據
 るものにして九月中旬頃前年の刈株を掘り採りて數多の小株に分ち其根端及
 葉先を切りて田又は畑に假植す苗代の肥料は一畝歩に人糞百貫(凡そ八荷)魚
 肥五貫位にして人糞は四五回に分與し魚肥は粉末として九月頃施與するを可
 す苗木を本田に移植するは十二月一月頃とす一株五六本の割にて三四寸の距離
 に植付け深さは一寸乃至一寸三分の淺植を可とす藺は極めて多量の肥料を要
 し一反歩鮮搾粕四五十貫人尿糞二百貫紫雲英百乃至百五十又大豆粕百
 藁木灰十貫を施し止肥は刈取り三四日前(入梅前)に施すべく稻と異なり
 收穫期まで養分に欠乏せざらしむる必要なり刈取は一般に七月土用入後三
 四日の間に行ふものにして兩三日晴天の續くを見計ひ早朝より着手す可し一反
 歩の収量普通三百五十貫内外なり

(二) 七島藺

七島蘭は蘭に比して温暖なる氣候を好み土質は肥沃なる砂質壤土を可ぞす苗は田苗床又は畑苗床にて育成さるれども畑苗床にて育成したるものは成績佳良なり本田は稲作に於けるが如く整地し原肥を施し四月下旬頃苗四五本を一株とし縦三四寸横五六寸位を距て成る可く浅く植付くるを要す其後追肥。除草等凡ての管理を町疇になし四五尺に達せば鎌にて高さ四尺五寸許りの處より二三回心止をなす可し花蕾の將に開かんこする頃は刈り取りの適期にして晴天に之を収穫し長短を選別し適宜の束こして屋内に運び二に割りて乾燥す一反歩の収量二百貫内外ぞす

(三) 煙草

煙草は温暖なる氣候を好み排水良き砂質壤土に適す主なる品種は國分、秦野等にして十一月下旬(國分)より二月上旬頃一坪につき種子量約一匁を細砂に混じて苗床に播下し四月乃至五月頃に至り本圃に移植す本圃は町疇に耕翻し普通二尺七八寸乃至三尺の畦に一尺内外を距て原肥を施し後浅く植付く可し其後追肥。中耕。除草。病虫害の驅除豫防をなし定植後五六十日にして花蕾を生ずるに至れば摘心す可し葉淡黄色に至らば収穫す収穫後は適宜乾燥して調製する

ものこす

(四) 麥稈經木眞田

麥稈眞田の原料としてはユビンナル稈麥賞用せられ之を収穫するには穂の先端点か狐色となり稈葉半ば綠色の時晴天の日に刈取り穂を除きて日乾し第一第二の節間を鉄にて切り葉鞘を除き漂白す漂白するには苛性曹達液に浸したる後亞硫酸瓦斯にて燻蒸し清水にて洗ひ乾燥するものこす是を品質により選別し光澤の缺乏せるもの汚点あるもの等の劣等品は染色するを普通ぞす精選せる麥稈は直に販賣し又は便宜之を編紐す編紐するには先づ麥稈を浸水すること十分の後の水を振り切り之を編み陰乾したる後六十一「ヤール」を一反として販賣し編み方は種々あるも時好を追ふの必要あり經木眞田は麥稈眞田と同じく多く外國に輸出せらる其原料はアスナロ、ドロ、ヤマナラシ等の木材を鉋にて薄く削りたるものにして編み方は凡て麥稈の如し近來麥稈と經木との混編物流行するに至れり

(五) 製紙原料

製紙原料には楮、三極、雁皮、稻藁及七島藁等あり今其栽培法を述べれば次の如し

楮は稍温和なる氣候を好み砂礫を交ゆる土地に適す蕃殖は多く根分法による即ち四月頃強健なる株を掘り直經二三分位の根を五六寸の長さに切りて苗床に二三寸位距て挿植す、六月頃發芽せば強健なる二個の芽を残し他は悉く除去し一尺位に達せば一本となすべし秋期落葉後掘り採り假植し置き落葉後より發芽前までに本圃に定植す定植の場合には根及莖は何れも五六寸許に剪截すべし刈取は落葉後より翌春發芽迄の間にして就中十一月初旬より一月下旬の間を好期とす製皮するには蒸桶の高さに應じて楮を切り揃へて束となし蒸桶の中に入れ二三時間蒸し臭氣を放ち切口の皮剥ぐるに至らば之を取り上げ直に剝皮し一握の大きに束ね竿に懸けて乾燥す是を黒皮と云ふ白皮となすにはこれを清水に浸し小刀を以て外皮を削り去り乾燥し再び清水に浸して更に乾燥す収量最も多きは五六年乃至七八年生のものにして其後は漸次減少す十五年間の平均一反歩収量黒皮二十四貫、白皮十七八貫とす三極は温暖なる氣候を好み砂礫を混する土地に適す之に青木、赤木の二種あり種子にて蕃殖するには三月乃至四月頃苗床に條播し翌春本圃に定植す定植後二三年目より伐採することを得、取獲及製

法は楮に同じ一反歩の収量黒皮五十貫内外にして白皮は其四割前後とす

雁皮も温暖なる氣候を好み土質を選ばず蕃殖は實蒔又は根分法による根分法は楮に準じて可なり實蒔をなすには三月中旬頃苗床に播種し翌春他の苗圃に移植して三年目に本圃に定植す定植後二年乃至五年を経ば伐採し其後は二年乃至三年毎に刈採る可し伐採の時期は春分より秋分までの間とす伐採せるものは小枝を去り水にて洗ひ皮を剥ぎ薄刃庖刀を以て黒皮と其内部にある青皮とを去り清浄なる綿布を以て能く拭ひ竿に懸け日陰して乾す可し一反歩の収量は黒皮三四十貫とす

(六) 竹細工

農家の副業としての竹細工は箆類、籠類、行李類とす此等は我國一般に需用するものにして供給過多なる憂は少からん殊に竹行李に至りては外國輸出の道開けてより需用の道更に擴大せり宜しく農家は土地の状況に應じ此等手工業の原料を出す竹林を起し又既に其原料に富める地方にては一部落或は一村の農家副業として是が製造業を起し以て組合を組織し共同販賣の法をこるか又は農會、村役場等の世話を受けて之を貿易港に直取引する工夫をなすこと必要なり

(七) 茶

茶は温暖にして濕潤なる氣候を好み乾燥に失せざる排水よき砂質又は粘質壤土に適す普通種子によりて蕃殖し播種法には株蒔及畦蒔の二あり株蒔に又三種あり輪蒔、四角蒔、三角蒔是なり暖地にては秋蒔とし採種後直に下種し春蒔は寒地にて行ひ貯藏せる種子を十日許り水に浸して播下す發芽後二年目に至り春秋二回施肥し三年目よりは數回施肥するを要す普通の施肥法は春期發芽前芽肥を稱して人糞尿或は油粕に米糠を混じて施し摘芽四五日前色附肥を稱して人糞尿を施し一番芽摘採終らば再び人糞尿或は油粕に米種を混じて施し夏日は青草の類を株間に敷き秋に至り耕して之を埋め且堆肥、油粕等を多量に施し冬季は寒肥を稱して人糞尿堆肥、魚肥等を與ふるものこす茶樹は四年目の春より剪枝を行ふものにして其方法に二種あれども高さ二尺五寸乃至三尺餘の饅頭笠形に刈込むを普通こす摘葉は通常四年目より初め五月上旬より中旬の間新芽四五葉を生ぜし頃一番摘をなし其後約一ヶ月を経たる頃二番摘をなし直に剪枝し夏土用頃三番摘をなすこあり生葉の収量平均一反歩四年目には二三〇五年目には五六〇六年目には十二三〇七年目には三十〇八年目には八十〇九年目には貳百

(八) 蕪細工

五十〇こし爾後著しく増加することなし製茶には數種あれども最も普通なるは剪茶こす之を製するには先づ葉を蒸籠に入れて蒸すこ三十秒乃至四十秒後冷却して焙爐場に掛け搓揉して乾燥を行ふものこす

(九) 藍

蕪細工は我國農家の特有な云ふ可くその原料は米作の主なる副産物にして又其需用も年々増加し供給過多の虞なし蒔、吹の如きは近年朝鮮、北海道、西比利亞等に輸出し其額四十萬圓以上に上り將來益々有望なり其他草履、俵、フゴ、モッコ等の如きも亦需用多く農業者は夜間に雨天に農閑に是等の蕪細工をなし自家用をなすの外市場に賣り出し小を積で大をなすの計をなさざる可からず

藍は炎熱鬱濕の氣候に於て最も能く生育し有機質に當める砂質壤土に適し河川沿岸沖積地は其最たるものこす普通苗床にて苗を育成して移植するものこす苗床は幅五六尺長さ適宜の床を作り周圍に高さ五寸許りの土手を設け基肥を施し三月乃至四月に播種す種子は七八日間水に浸して箆を揚げ水氣を去り種子五合

に對し細末させし魚粕三升に少量の水を混和して播下は播種後約三週間にして
發芽する故適宜に間引き苗五六寸に長せば移植す移植の適期は五月にして二尺
五寸位の畦幅に麥を蒔付け其間作として一尺五寸乃至二尺五寸位を距て藍苗
十本許を一株として植付け其後肥培管理をなし移植後七八十日を経莖葉充分
に生長し將に花梗を抽出せんとする頃刈り取るものごとす刈取りは根際より三寸
位の高さに於て二三株を合して一個の小把に束ぬべし其後又刈株に肥培し置
けば二番藍を得一反歩の乾葉收量七八十をを上作す内凡そ四五十は一番藍
のものなり刈取りたる藍は直に五分位の長に刻み上部三分の一を上葉とし以下
を下葉として區別し箕にて葉を分けて其夜は屋内に蓆を敷きて成る可く
薄く擴げ翌朝乾燥場に出し一反歩の莖葉を凡そ三十枚の蓆に擴げ日光に當て
乾燥せしむ乾燥中は時々反轉す可し充分乾燥せば葉と莖と莖葉相附着せるもの
この三種に區別し莖は葉を其他は各別に貯藏して販賣若くば製造す葉は秋冬
の頃乾葉を醗酵せしも葉中の藍分を染色に便ならしむる様調製せるものにして
之に少量の水を加へて搗練し圓形若くは方形に固めたるを藍玉とす

(十) 纖維原料

纖維原料には大麻、亞麻、苧麻、イナビ、草綿等あり今之等の内大麻に就て述
ぶれば次の如し
大麻は溫和なる氣候を好み砂礫を混ざる壤土に適す三月下旬乃至四月上旬普通
一尺内外の畦幅に條播す而して苗二三寸に長ぜし頃より四五寸に達するまでに
二三回間引を行ひて各苗の距離を一二寸とし中除、除草は一尺二三寸に達する
頃までに二三回行ふを常とす莖及下葉共に稍黄色を帯ぶるに至らば晴天の日を
選んで拔取り土を落し根部を揃へ土際より切り葉を去り長短を區別し凡そ二尺
廻りに束ね稍末を切り揃へ熱陽に浸すこと約二分間にして取り上げ後束を解き
地上に並べたる横木の上に排列乾燥すること二三日間とす斯くして乾燥せるも
のを再び水に浸し直に取り上げ尙ほ二三日間日光に當つる時は光澤ある麻苧を
得べし乾燥せる麻莖は濕氣ある場所に貯へ隨時取出して製苧するものごとす一反
歩の收量生莖三四百貫許を中等とし是より十五貫乃至三十貫の製苧を得

327
704

大正四年二月二十日印刷
大正四年二月廿五日發行

福岡縣立農事試驗場

福岡縣筑紫郡住吉町貳百九拾番地

印刷者 古川秀生

福岡縣筑紫郡住吉町貳百九拾參番地

印刷所 穴井商會活版部

327
704



327
704

終

